

2005年5月12日

セクター: サービス業

株式会社 Now Loading (2447 名証セントレックス)

足元の業績は堅調、情報開示水準はトップクラスであり、信頼出来る

業績面では、特定の販売先と特定のコンテンツに対する依存度が高い点が気懸かりではあるが、当面の成長性は確保されていると考えられる。また、当社の特徴としては、情報公開の水準が非常に高いことが挙げられる。2期先までの業績予想まで開示されているが、これは当社の経営に対する自信の裏付けであるとも考えられる。

事業モデルに新鮮味はなく、ネット系企業でも特に高い成長性があるとは考えにくい。来期の予想 EPS 約 1 万円をベースに、相当高い PER 水準が当面はつくと考えられる。

連結データ(左肩は対前年比(%))

決算期	03/3	04/3	04/9	04/12	05/3会予	06/3会予
売上高(百万円)	424	1,003	563	927	1,460	1,750
		136.5%			45.6%	19.8%
営業利益(百万円)	9	101	64	112	--	--
		1060.9%				
経常利益(百万円)	10	105	64	111	167	194
		936.1%			59.3%	16.3%
当期利益(百万円)	6	60	36	64	98	114
		898.2%			64.1%	16.7%
総資産(百万円)	128	420	385	417	--	--
純資産(百万円)	36	192	228	256	--	--
株主資本比率(%)	28.2%	45.7%	59.4%	61.5%	--	--
ROA(%、経常利益 \wedge -入)	7.9%	25.0%	16.6%	26.7%	--	--
ROE(%、当期利益 \wedge -入)	16.6%	31.0%	16.0%	25.1%	--	--
発行済株式数(修正後、千株)	12	12	12	12	12	12
EPS(円/株)	490	4,895	3,000	5,292	8,034	9,373
BPS(円/株)	2,957	15,786	18,787	21,079	--	--
配当(円/株)	--	--	--	--	--	--

03.3期は9ヶ月決算

事業概要～売上の主力はモバイル向けのコンテンツ提供

当社は顧客企業の有する経営リソース(事業アイデア、商品・サービス、販売網、ブランド、遊休資産、人材など)を活用し、総合的に戦略及び戦術を立案・実行することで顧客企業の事業及び収益拡大を支援する一連のサービス(セールスプロデュース事業)を主たる事業としている。

セールスプロデュース事業は、モバイルコンテンツ・WEB サイト等デジタルコンテンツの企画・開発を主とするコンテンツプロデュース事業と、販売促進や会員獲得のための戦略策定・広告宣伝・パブリシティーの活用やアライアンス構築を行う、ビジネスプロデュース事業から構成されている。

足元の各事業分野毎の売上高は下表の通りであり、売上の大半をコンテンツプロデュース、中でもモバイル向けコンテンツの提供となっている。

【表1 事業分野別の販売高(百万円)】

	04.3 期		04.9 中
	販売高	前期比	販売高
コンテンツプロデュース事業	870	+113.0%	412
役務提供高	119	+256.8%	101
商品販売高	12	+5,067.9%	49
ビジネスプロデュース事業計	132	+292.4%	150
合計	1,002	+226.5%	563

収支の状況

当社は既に、04.12 第三四半期の実績と、05.3 期通期及び 06.3 期の業績予想を発表している。売上高では、第三四半期に、それまでの半期のペースを大きく上回る増加を記録しており、05.3 通期でも、この大きく伸びた第三四半期実績並みに1～3月も推移することを前提とした見通しとなっている。05.3 期は、ほぼ会社発表の業績予想からはずれることのない実績が発表されると考えられるので、06.3 期が、会社発表の見通しを達成できるかが課題となる。

足元の売上高の内訳では、表2のように、モバイル向けの売上が大きいのだが、その中でも特定の一社に販売が集中しており、更にそれは、特定のコンテンツの売上高が大半を占める構造となっている。この特定のコンテンツの集客動向と、新たなモバイル向けコンテンツが開拓できるかが、06.3 期業績を予想する上でのポイントとなり、当面は販売動向に注視する必要がある。

【表2 特定の販売先への依存度】

	03.3 期	04.3 期	04.9 中
(株)エクシング向け売上高の全体に占めるシェア	70.1%	63.8%	46.3%
「ポケ声 & ポケ音」の売上高の全体に占めるシェア	49.5%	47.6%	34.2%

株式の状況～ストックオプションによる希薄化効果は5%程度

当社は、03年7月に1:4、04年7月にも1:2の株式分割を実施し、05年5月時点の発行済み株式数は、9,240株となっている。今回の上場にあたっての公募が2,300株あり、更にストックオプションの未行使残高が、表3のように622株ある。このため、上場時点での想定発行済み株式数は、12,162株とした。ストックオプションによる希薄化効果は5%程度であり、特に問題となる水準ではない。

【表3 スtockオプションの未行使残高】

決議日	株式数	行使価格	行使期間
04年3月	40	75,000	06年4月～14年2月
04年7月	282	75,000	06年4月～14年2月
04年7月	300	75,000	06年4月～14年2月

有価証券届出書提出時での想定発行価格は25万円となっており、これを基礎として計算した今回の公募増資による概算手取額は545百万円となる。この資金使途は、運転資金及び事業拡大のための資金となる予定。

情報開示の状況～上場前段階としては、最高水準にある

当社のHPには既に投資家向け情報開示のページが設置されている。内容的にも、上場関連の書類の他、財務情報やFAQ、ディスクロージャーポリシー等も整備されており、上場前の段階での開示水準としては、最高レベルにある。更に1年先までの決算発表予定まで公開されており、情報開示の透明性・積極的な姿勢は非常に高い水準であり、信頼感が高い

本資料における個別銘柄に関する注意事項

- ・ EPS・BPS・株主資本比率の計算の元となる、純資産・総資産・株主資本は、各決算期末時点の会社公表数値を用いている。発行済み株式数は、自己保有株を含まない。また、株式分割・公募増資・自己株買い入れ等を必要に応じて過年度を含めて修正している場合がある。
- ・ 一株当りの配当は、株式分割・公募増資・自己株買い入れ等を必要に応じて過年度を含めて修正している場合がある。

その他の重要な注意事項

本資料は、投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資対象となる有価証券の価値や投資から得られる収入は、証券価格の変動のほか、発行体の経営・財務状況の変化、金利や為替相場の変動やその他の要因によって変化する可能性があり、投資額を下回る場合があります。また過去の実績は必ずしも将来の成果を示唆するものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。

本資料は、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成されたものですが、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、本資料に記された意見や予測等は、資料作成時点での当社の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料の著作権は当社に帰属し、その目的のいかんを問わず無断で本資料を複写・複製・配布することを禁じます。